

Global Energy Policy Research

GEPR (グローバル・エネルギー・ポリシー・リサーチ) は、日本と世界のエネルギー政策を深く公平に研究し、社会に提言するウェブ上の「仮想シンクタンク」です。この機関は、アゴラ研究所 (<http://agorajp.com/>、東京) が運営し、エネルギー問題についての研究と調査、インターネットでの情報提供、シンポジウムの開催、提言の作成、書籍の出版を行います。

気候変動はエリートの妄想だ

杉山 大志 · Friday, May 21st, 2021



metamorworks/iStock

気候変動を気にしているのはエリートだけだ 英国のアンケート結果を紹介しよう。

調査した会社はIpsos MORIである。

問いは、「英国で今もっとも大事なことは何か？」

というもの。コロナ、経済、Brexit、医療に続いて、気候変動が5位にランクインしている。

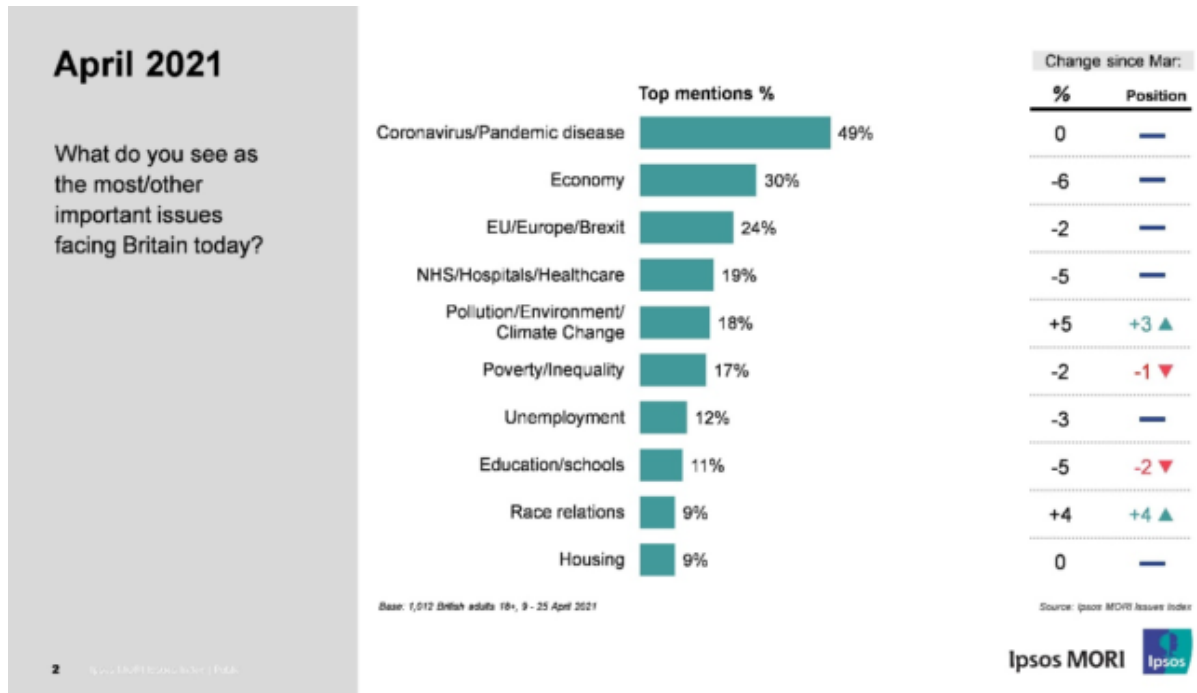


図1 英国で今もっとも大事なことは何か？

英国ではBBCなどが気候危機説を煽り立てるプロパガンダを繰り返してきたので、気候変動を本気で心配している人は多く、18%もの人が最優先事項に上げている。

さて面白いのはこの次の図で、社会階級別にみると、AB(上位および中産階級)では多くの人(28%)が気候変動を挙げたのに対して、中位・下位階級では気候変動の優先順位は大幅に下がることだ。

具体的には、C1(下位中産階級)で18%、C2(熟練労働者階級)で14%、DE(労働者階級および非労働者)で12%となっている。なおこの階級分類についてはWikipediaにあった表を付けておこう。

Concern about pollution/climate change by subgroup

What do you see as the most/other important issues facing Britain today?



図2 誰が気候変動を心配しているのか？

グレード	社会階級	主たる収入者の職業	2008年の割合 ^[3]	2016年の割合 ^[4]
A	上位中産階級	上級管理職、事務職、専門職	4%	4%
B	中産階級	中間管理職、事務職、専門職	23%	23%
C1	下位中産階級	監督、事務、下級管理職、事務職、専門家	29%	28%
C2	熟練労働者階級	熟練した肉体労働者	21%	20%
D	労働者階級	半熟練および未熟練の肉体労働者	15%	15%
E	非労働者	州の年金受給者、非正規および下級職員の労働者、州の給付金のみで失業中の人物	8%	10%

表1 イギリスの階級分類。Wikipediaによる。

つまり

カーボンニュートラルはエリートの妄想にすぎず、エリート以外の多くの人々は温暖化以外の日々の問題の方が重要だと考えている 訳だ。

図2にはもう1つ面白いデータがある。年齢別にみると、じつは18~24歳という若い人たちが最も気候変動の心配をしていない。気候変動と答えたのはわずか15%だ。

よく「海外の若者が気候変動対策を強化するよう求めてデモをしている、これは若者と大人という世代間の戦いだ」と主張する映像が報道されているが、どうも違うようだ。

デモを繰り広げているのはエリートたちであって、我々の見ている映像は、**実はエリートと庶民という階級間の戦い**なのではないか？

地球温暖化のファクトフルネス

This entry was posted on Friday, May 21st, 2021 at 7:00 am and is filed under [コラム](#), [地球温暖化](#)

You can follow any responses to this entry through the [Comments \(RSS\)](#) feed. Both comments and pings are currently closed.